

## 「論語」に学ぶ

校長 高田 晶子

2学期のスタートは、“Best Performance”をテーマに掲げた体育祭で始まりました。コロナ禍ではありますが保護者の参観をいただき、実施することができ、本当に良かったと思います。運動することは健康増進のためだけではなく、「運」を「動かす」と言われます。学期初めに、運動することで生活リズムを取り戻し、「運」を引き寄せたと言えるでしょう。2学期の生活も生徒たちとともに張り切っていきたいと思います。



さて、一年間の中で2学期は校内行事が多い学期です。この期間には大いに体験をし、大いに失敗をし、たくさんの経験を積んでほしいと願っています。私たちはよく、「失敗なんか気にしないで。」とか「失敗なんかたいしたことないよ。」とやりとりすることがありませんか。何かチャレンジする時や期待されて事を起こそうとする時には、緊張をすることが多く、「失敗したらどうしよう。」「恥ずかしいな。」「皆にどう思われるかな。」という経験は誰にでもあると思います。

そこで、\*『論語』から少し学んでみたいと思います。

例えば、“<sup>あやま</sup>過ちて <sup>あらた</sup>改めざる <sup>これ</sup>是を <sup>あやま</sup>過ちという” という章句があります。

解釈は、“うまくいかないことがあって、その後、それを改めなかったら、そこで初めてそれを失敗と言う。”ということです。体験したことは次に活かせばいいことであり、失敗は本来存在しない。成功体験の一部である。失敗という経験値を積む事がプラスとなり、思考や態度の体験づくりとも言える。という捉えになります。

現代は、失敗を恐れているのは、子どもだけでなく、多くの大人もそうです。生活の中で評価されることはとてもたくさんあり、どうしても失敗したくないという気持ちが先に湧いてきてしまうのは、仕方ないことなのかもしれません。しかし、本来の人としての活力は、そんな弱々しいものではありません。学校生活では、成績や行事、部活動など評価される体験は多くありますが、一度評価されたことを次に活かしていく力も私たちにはあるのです。失敗したと思ったことは、そのままにせず、勇気をもって次に活かせるのです。そうすれば、成功したという体験をたくさん積み重ねることができます。私たちが失敗と恐れていることは、自分が決めてしまっているかもしれません。失敗と思っていることは、本当は、成功のための経験ということなのでしょう。

日常生活の中で、失敗を成功体験につなげていけるように、失敗したことをポイント制にして「グッド・チャレンジ」させている企業があるそうです。この夏に論語から学ぶ機会があり、思いが深まりました。

\*「論語」は、中国・春秋時代の思想家・孔子とその弟子たちの言葉をまとめたもの